

- ② 福井県の「小さな親切」運動
 - ・幸福度ナンバーワン県を支える、福井放送の「小さな親切」運動
 - 坪田清則 福井放送株式会社取締役最高顧問
 - 小藤幸男 同 代表取締役会長
 - 宮腰義博 同 代表取締役社長
 - ・アイデア満載の「あいさつ運動」の効果
 - 鯖江市鳥羽小学校
- ⑦ 運動本部おすすめ「大人の塗り絵」 株式会社 河出書房新社
- ⑧ 平成28年度伊勢志摩サミット開催記念
日本列島クリーン大作戦 全国で展開中
三重県本部／広島県本部／岐阜県本部／香川県本部
- ⑩ 「小さな親切」実行章は感謝のしるし
- ⑬ 第6回 社員総会
- ⑭ Information & HIROBA「おとなの作文」



表紙写真

上段左：大人の塗り絵 クービー BOX
(河出書房新社)

中段右：関ヶ原のカフェのチーズケーキ
(戦国武将の家紋入り旗とクッキー添え)

下段：三重県百五銀行のクリーン大作戦

「小さな親切」誌は、季刊発行 春号・5月、夏号・8月、
秋号・11月、新春号・1月の予定です

平成28年8月1日発行 通巻503号

編集・発行人 鈴木恒夫

発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061
東京都千代田区三崎町2-20-4
TEL.03-3263-2866
FAX.03-3263-3838
<http://www.kindness.jp/>

印刷所 広研印刷株式会社

© 無断転載禁止
落丁、乱丁はおとりかえいたします。

デザイン 有限会社リトルフット



土光敏夫さんの教え

代表 鈴木恒夫

貧 寒の美」といった「日本の美風」を感じる言葉に出会うと、私の胸中に真っ先に蘇る一人の人物がいる。それは宗教家でもなければ哲学者などでもない。なんと経済・財界人の土光敏夫さん(故人)だ。第4代経済団体連合会会長。岡山県の農家に生まれ、上京して技術者となり、「東芝」の経営立て直しを社長として成し遂げたあと、昭和49(1974)年にわが国財界のトップの座についた人だ。この大偉人は今でも多くの人々が尊敬してやまずにいる人物だが、私は個人的にほんとうに多くの、人間の生き方についての「お教え」を受けた。

まず、土光さんのご自宅は横浜・鶴見にある質素そのものの家で、私は自分の生家が近かったせいもあり、私の亡き父からは、土光さんの母親が自宅前に創立した女子学校に自分の給料の多くを寄附し続けていたことは聞いていたし、毎朝早々と起床すると仏前にお経を唱えたあと、木刀を振って心身の調整をし、迎えの車で家を出て、まず東芝本社の役員室へ。始業前で一部屋だけしか電灯のついていないところで、書類処理をするなどしたあと経団連本部へ。まさに、寸刻を惜しまずに働く毎日だった。

実 は私は、新聞記者として土光さん取材し続けるという強運に恵まれていた。もともとは毎日新聞の政治記者だった私だが、昭和48(1973)年のいわゆるオイルショックで日本経済が大変な事態に追い込まれたことから、経済界・財界の取材には政治記者も加えねば——との社の方針で経済部への

出向を命じられ、その翌年の5月に会長に就任した土光さんを追いかけ回したのだ。

ご自宅への朝駆け、夜討ち取材はしょっちゅう。東芝の社長なのに古びた家の中に冷暖房装置などはいっさいなく、本で埋まっている自分の部屋の机の上に古い蛍光灯が一本。これが財界トップの私生活とはとても思えない姿だった。そうした部屋の中で、あるいは東京に向かう車の中で、私は取材するというよりは、ほんとうに数々の「お教え」を受けたのだ。

た とえば政治とカネの問題では、「オレは政治家のところへは裏口からは入らない」。ロッキード事件などで大揺れだった政界に「清貧土光」の改革のメスを入れたし、個人的なことについても、「オレは日記は書かない。後ろをふり返るより、前を向いていく」。「親不孝な男なんだ、オレは。まだ両親の墓を岡山につくってないんだ……」。「宴会で出る料理は全部食べる。残したらもったいないからだ」。そう言っていた土光さんについたあだ名ともいえるのが「メザシの土光」。カネとは無縁の孤高の人というほかはない存在だったことが、これだけでわかる。

ただ最後に、今だから言ってしまうご無礼をお許しください。ご自宅で一緒に食事をさせていただいた時のおかずは、「メザシ」ではなく「ニボシ」でした!!
[追記] 本年の新春号のこの欄で、私の小学校恩師への思いを書きましたが、誠に悲しいことに、先生は4月に93歳でご逝去されました。謹んで心より哀悼の誠を捧げさせていただきます。合掌